



## 01 研究背景と目的

古くから温泉や銭湯を楽しんできた日本人にとって、住宅の浴室は他の居室にはない癒しの空間の一つである。

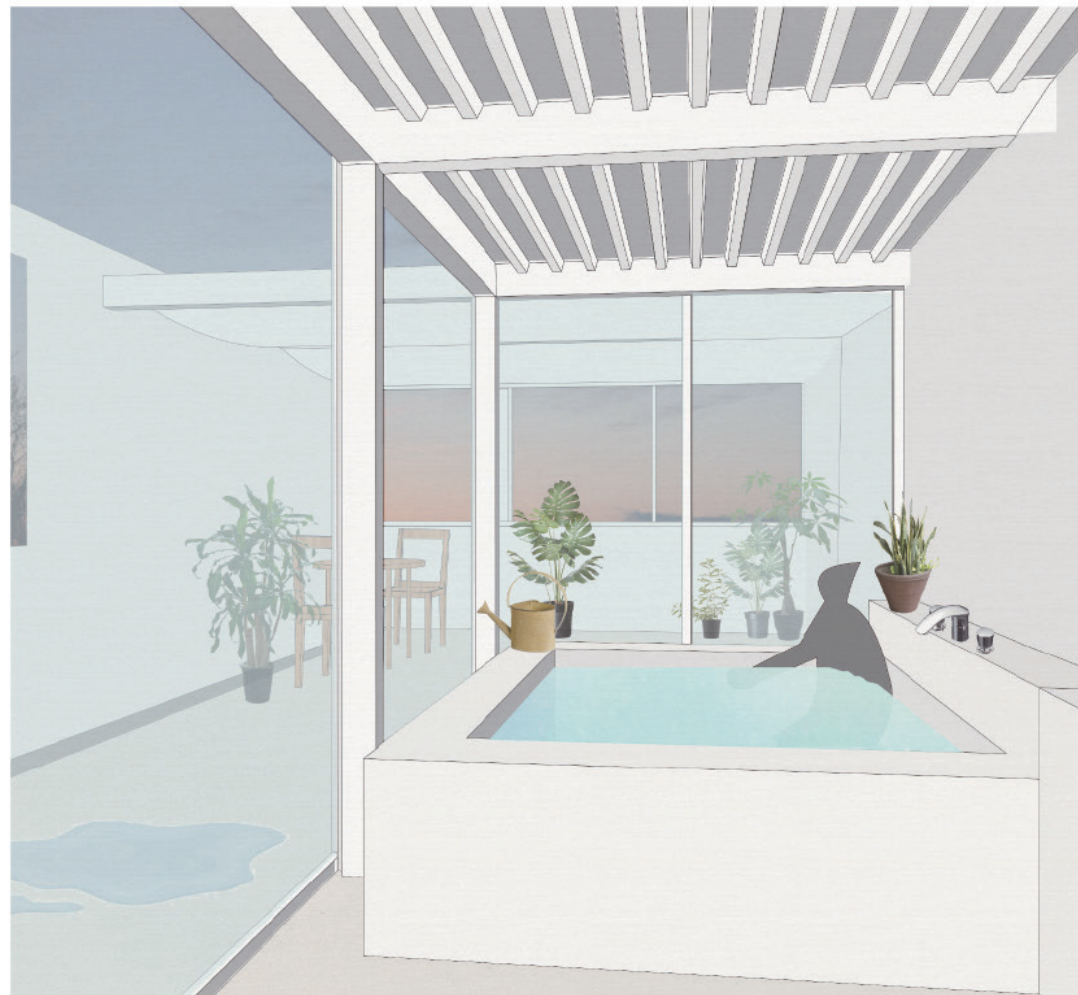
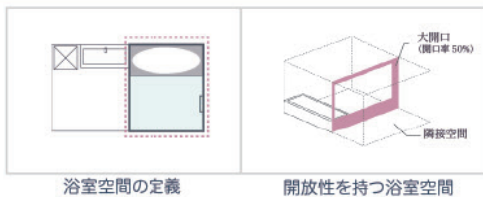
戸建て住宅の浴室は、近年ユニットバスの開発によって規格化し、プライバシーや設備などの観点から住宅の端に寄せられることが一般的である。これに対して現代建築家の作品の中には、自然との関係性を重視した浴室や、リビングや寝室に隣接した明るく広さを感じられる開放的な性格を持った浴室の事例が見られる。

本研究では、現代日本の建築家の開放性を持つ浴室空間を対象に、空間の連続性に着目した浴室まわりの構成パターンを作成し、その特徴と傾向を明らかにし、浴室に開放性を持たせることによって良好な居住空間を作り出すような設計手法の導出と提案を目的とする。

## 02 浴室まわりの定義

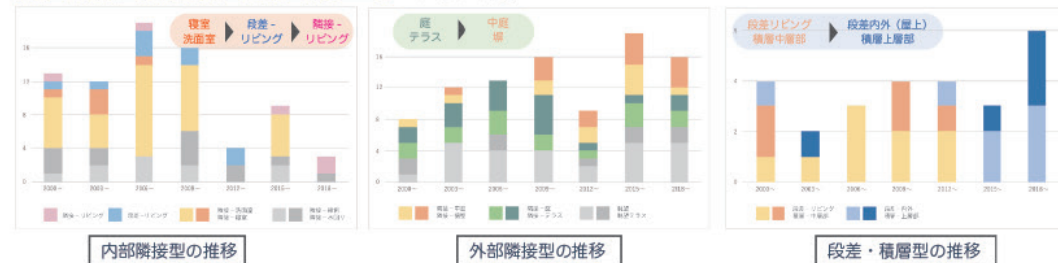
浴槽が配置され、壁で囲われている範囲を「浴室空間」と定義し、天井まで完全に仕切られていない場合や簡易間仕切りが使われている場合は、洗面脱衣室も浴室空間に含める。

また、「開放性を持つ浴室空間」を、一面の壁面積に対して50%以上の開口面積を持つ空間とし、その開口を通して隣接する空間との連続関係について考察する。



## 03 構成パターンの推移

2000年以降の『住宅特集』（新建築社）誌から大開口を持つ浴室事例を抽出し、〈隣接空間の種類〉〈床の分節形式〉から浴室まわりの構成パターンを9つに整理した。また、構成パターンの3年ごとの推移を「内部隣接型の類型」「外部隣接型の類型」「段差・積層型の類型」の3つの項目から考察した。内部隣接型では、プライバシー性の高い寝室や非居室から家族が集まる公室との隣接が増え、さらにリビングに対して段差を介して隣接していたものがフラットな床で隣接するようになった。これは居住者のプライバシー性への意識の変化が関係していると考えられる。また、段差・積層型では、設備機器による給湯の高さの制限が少なくなったことや、プライバシー性や防犯の観点から、住宅の上層階に浴室を配置する事例が増えていることがわかった。



# 04 設計手法の抽出

第3章で導いた構成パターンを敷地環境・プライバシー性、光環境、機能性といった異なる視点で考察し、開放性を持つ浴室まわりの構成の特徴と設計手法を抽出した。

**分析項目**

No.	建築家	所在地	完成年	建築面積	延床面積	浴室数	採光	採光
21	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
22	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
23	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
24	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
25	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
26	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
27	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
28	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
29	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
30	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
31	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
32	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
33	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
34	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
35	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
36	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
37	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
38	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
39	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○
40	隈研吾	東京都	2014	1,000㎡	2,500㎡	1	○	○

**類型：G-L段-浴室**

配置 奥 視線  
敷地 採光 用途

浴室 ○ △ □

**類型の特徴**

①浴室の配置  
②動線確保  
③採光の確保  
④採光方法  
⑤入浴以外の用途

〈浴室の配置の考察事例〉浴室を中心に配置することで開放的な浴室のプライバシー性を確保し、さらにはコアとしての役割や、動線の効率化が期待できる。

**道路手前側**

No.72 「六甲山の家」

**道路奥側**

No.170 「大塚学園の家」

**中央**

No.69 「北山山の家」

道路奥側  
道路手前側  
中央配置

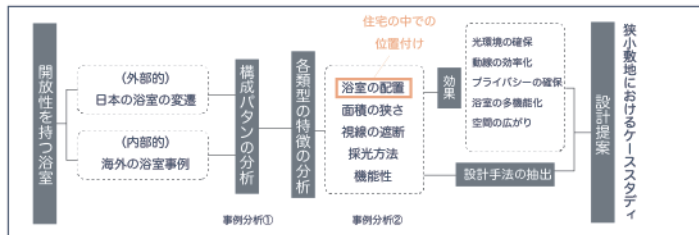
開放的な浴室の構成には5つの効果があることを明らかにした。また、5つの効果と関連する設計手法を建築部位ごとに表1にまとめた。

効果	設計手法	建築部位
①光環境の確保	天井・天井・屋根 窓 開口部	天井・天井・屋根 壁 開口部
②動線の効率化	動線確保 採光確保	動線確保 採光確保
③プライバシーの確保	採光確保 動線確保	採光確保 動線確保
④浴室の多機能化	採光確保 動線確保	採光確保 動線確保
⑤空間の広がり	採光確保 動線確保	採光確保 動線確保

- ①光環境の確保
- ②動線の効率化
- ③プライバシーの確保
- ④浴室の多機能化
- ⑤空間の広がり

# 05 敷地概要

開放性を持つ浴室のニーズが高い狭小敷地における住宅を取り上げ、第三章・第四章で導いた構成パターンと設計手法を用いて2つのケーススタディを行う。



設計敷地は3km以上続く曳舟親水公園や銭湯が多く存在している東京都葛飾区お花茶屋駅の周辺の住宅地から選定した。



# 06 設計概要

設計提案①「生活の中心となる浴室の提案」



プライバシー・採光面の確保が難しい狭小敷地

中央に配置  
居室とのつながり  
三層吹き抜けによって  
空気の流れを作る

空間構成	床・天井・屋根	壁	開口部
中央に配置	天井を高く 上層からの採光	壁	2層目は トップライト ハイサイド

道路と3面を住宅に囲まれたプライバシーの確保や採光条件が難しい狭小敷地を選定した。第3章の分析でリビング隣接型の浴室が増加していることを受け、リビングとつながりを持った内部隣接型を基本構成とする。住宅の中心に浴室を配置とすることで、プライバシーや北面の採光を確保する。また、上部を3層吹き抜けにしトップライトなどを設けることで採光・換気を行い、入浴以外の時には光庭のように活用する生活像を提示する。

設計提案②「防水性能を生かした浴室まわりの提案」



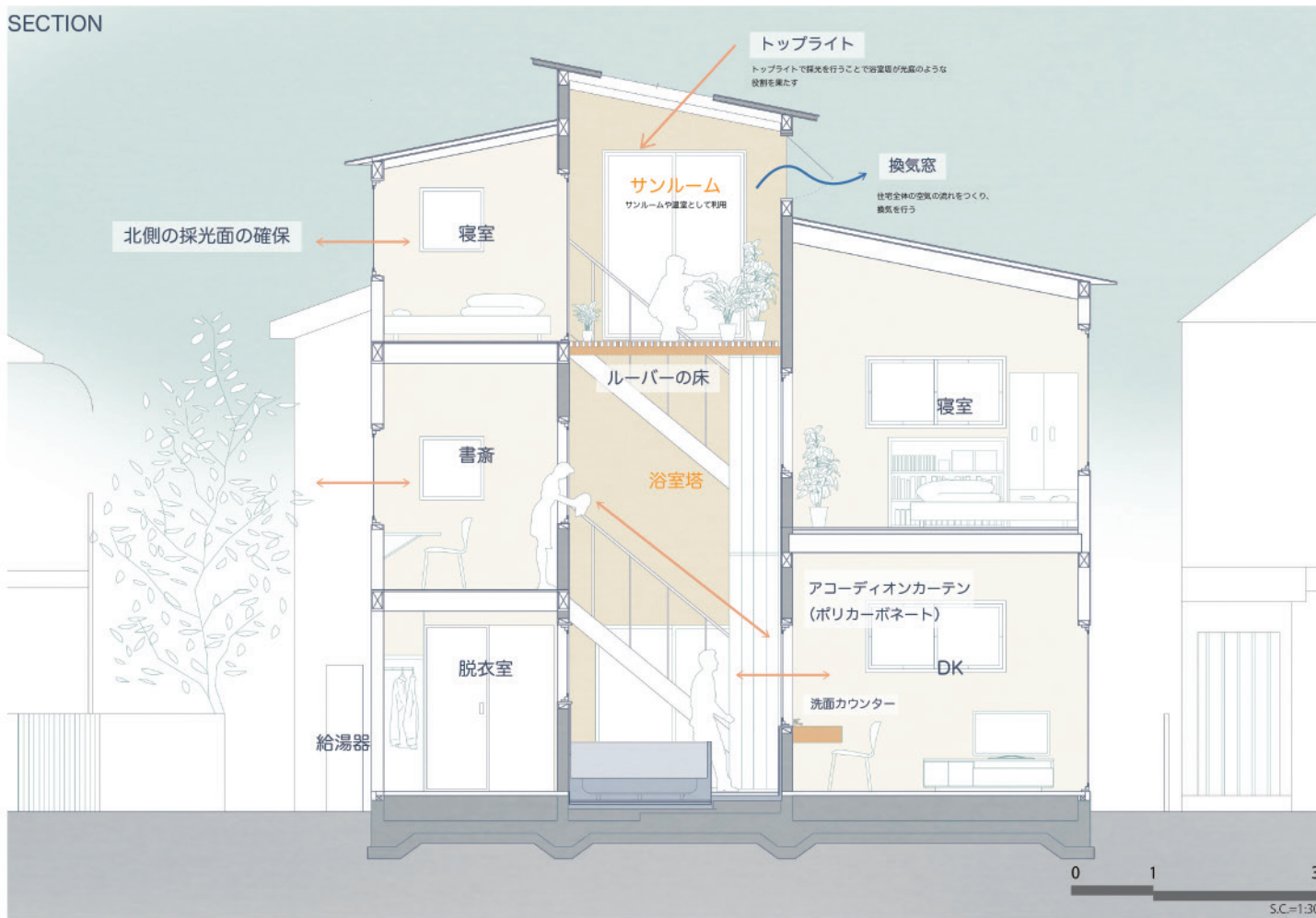
高層階への配置の増加  
浴室の防水性が重視される

同じく防水性が重視される  
屋上との一体化  
フロア全体を  
防水仕様にする

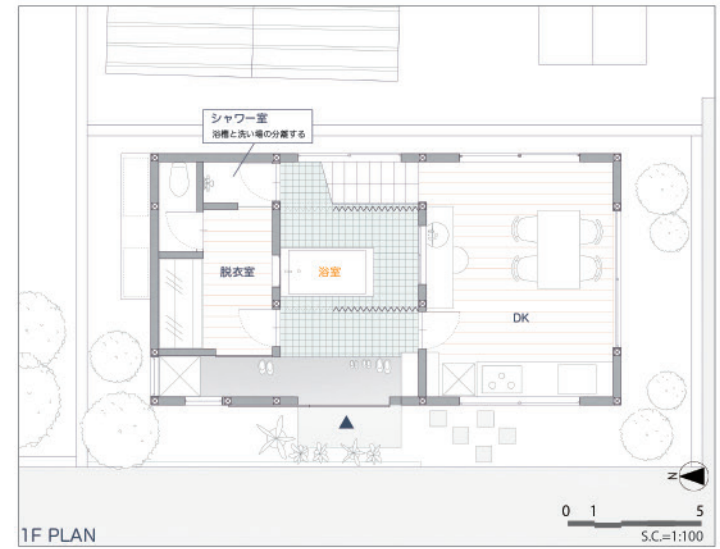
空間構成	床・天井・屋根	壁	開口部
水まわりの一体化 (屋上)	防水材料の統一	壁	全開口 カーテン

公園の入り口付近に位置し、住棟間隔が狭く南北に細長い狭小敷地を選定した。第3章の分析で、高層階に浴室を配置する住宅が増えていることを受け、高層住宅における浴室まわりの設計を行う。3階建ての住宅の屋上部分に浴室を配置し、浴室と同じく防水性が重視される屋上と一体化することにより、開放的な浴室と他階の居室の広がりのある住宅を提示する。

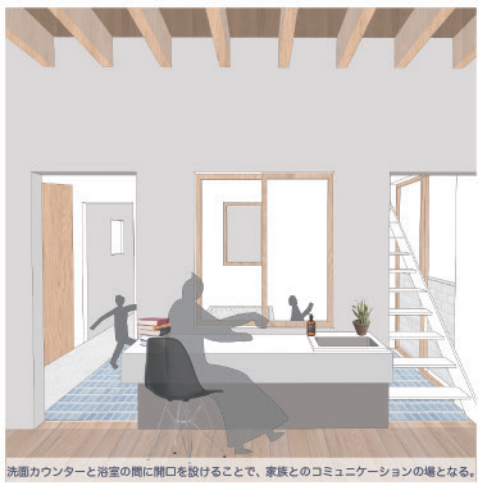
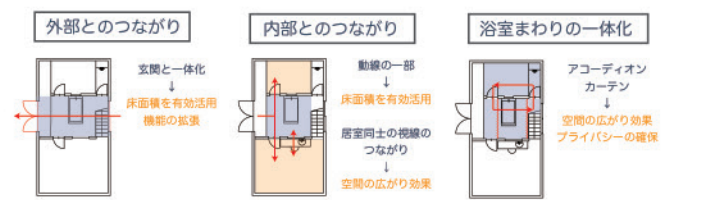
SECTION



PLAN



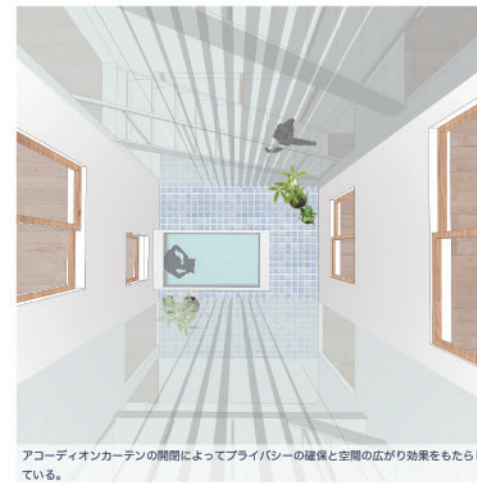
平面計画



洗面カウンターと浴室の間に開口を設けることで、家族とのコミュニケーションの場となる。



浴室上部に透透性のあるルーバーで床を作ること、日当たりが良く暖かい居室のような空間を作り出している。

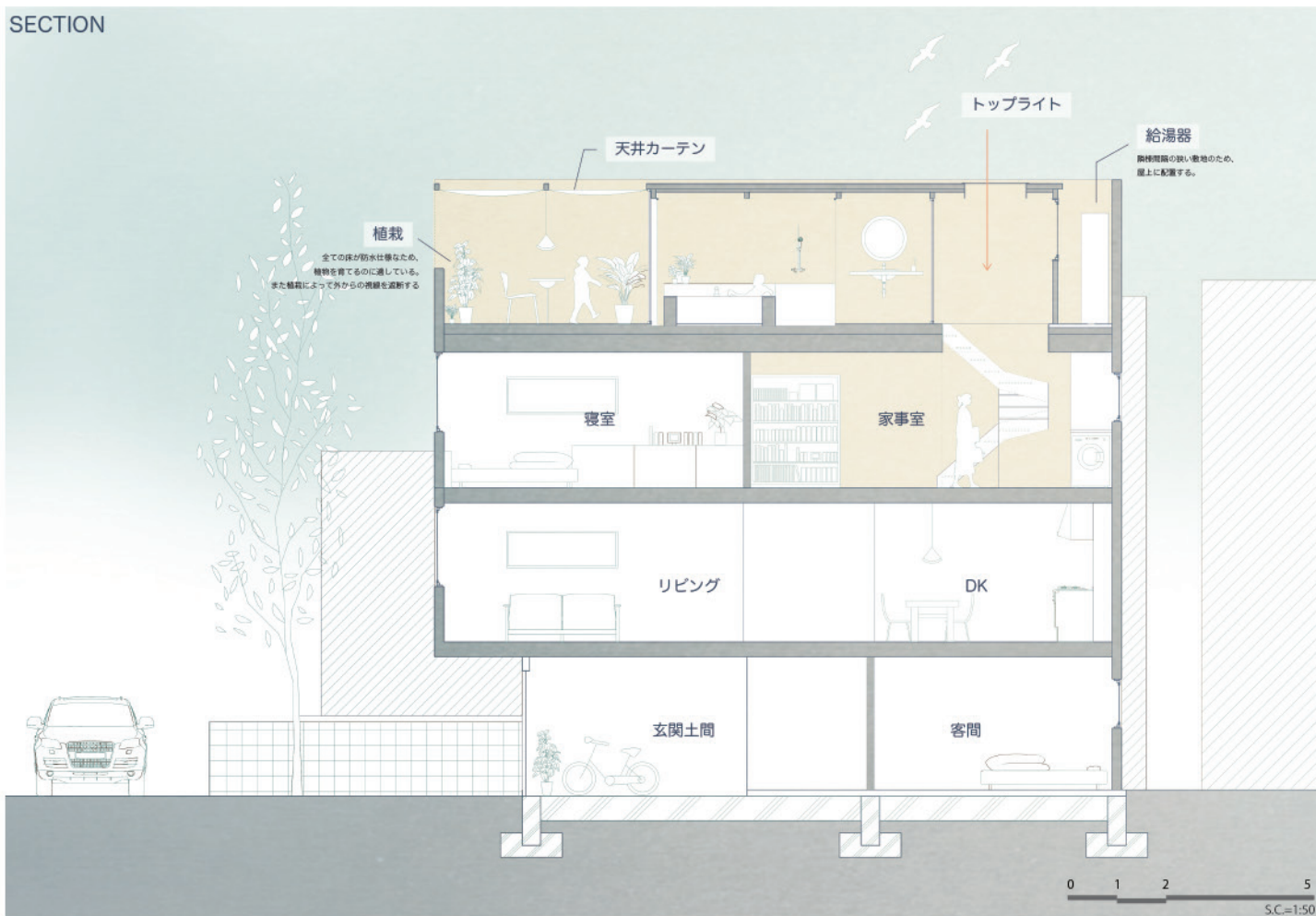


アコーディオンカーテンの開閉によってプライバシーの確保と空間の広がり効果をもたらしている。



入浴時以外には光庭のような役割を果たす。玄関と浴室を一体化することで広い床面積を確保している。

SECTION



PLAN



断面計画

